

# 日銀の視点

茨城県の県内総生産を見ると、第2次産業のウエートが全国平均より高いのが特徴で、製造業の生産額が多く、各種機械工業、化学工業、食料品工業などを中心に、「モノづくりのメッカ」である。

一方で、第3次産業のウエートは、わが国全体として、経済のサービス化に伴い、すう勢的に増加してきたが、本県の場合、低めとなっている。

最後に、第1次産業のウエートは、他県同様にわずかであるが、その生産額で見ると、本

日銀水戸事務所長 稲見 征史

## 実はフルーツ王国 茨城

県は全国上位であり、農林水産業が盛んなことがわかる。本県の農業と言えば、レンコン、ハクサイなどの収穫量が1位という話題になりがちだが、果物に着目すると、本県は国内屈指のフルーツ王国といつのが、以下紹介する勝

手な自説である。フルーツ王国というと、山梨県や山形県をイメージする方が多い。本県に着任した昨年6月がメロンの収穫期で、東京の生活ではめったに購入しなかったが、こちらでは頻繁に口にされる機会に恵まれ

た。価格が割安で、求めやすいのがありがたい。同じ時期、スイカも店頭でよく見かけたが、こだまスイカが名産。果物の水分補給で猛暑を乗り切ると、秋は笠間で香ばしい焼き栗に出合った。新鮮な生栗も購入し、教えに沿って冷蔵保

いたが、冬に向けては奥久慈でリンゴが取れると聞き、紅葉狩りの道中で傾斜地にある風光明媚な農園を訪ね、景観と味の両方を堪能した。ようやく年末を迎えたが、間もなくイチゴの季節との報道も目にする。1年中果物を欠かす

存するとうまみが増すことも体感した。さらに話を伺うと、ナシは県西を中心に全国2位の収穫量、常陸太田にはブドウ棚が広がり、独自品種も栽培している、秋には県内で柿も出回ると聞いた。さすがにこれで終わりだろうと思っ

ことがない土地である。全国への出荷量が多いメロンなど代表的なものだけでなく、地元への供給や観光を目的として作られ、日常的に入手可能なおいしい果物が数多くあることから、一つの県で栽培している種類の幅広さで見れば、全国トップクラスではないかとい

同じ論法で考えると、本県は野菜王国にもなるが、フルーツ王国は県外の人の旅情を誘うには絶好のうたい文句だ。今年1年、災害がなく、天候が安定し、豊作であることを願いたい。私自身も、地産地消の観点から、多くの恵みを引き続き楽しむつもりだ。

(次回は2月8日)